

日貨労中央本部の第33回定期全国大会（6月）における「総団結に向けた特別議案」の内容については既報のとおりだが（民主化闘争情報No. 961）、関係者の話によれば、当該議案提起後に行われた集中質疑の中で、中央本部と‘対立’関係にあると思しき関東地本の吉沢委員長が「日貨労中央本部の学習会（塾？）で、革マル派創始者である黒田寛一氏の著書『社会観の探求』が使用されていた」旨を指摘し、その理由を問い質す一幕があった模様。また、さらに驚いたことに、この発言に対して中央本部の税田書記長は、「内容が正しければ、誰が書いたものであろうが学習の素材になる」旨を述べ、まるで“革マル派思想教育”を認めるような答弁をしたようである。

## 日貨労は‘革マル派同盟員’養成所か!?

本部主催の学習会でも革マル思想を教育!?

関東地本が、革マル派であると公言するJR東労組一部OBらを招き入れて勉強会を開催していただけてだけでなく、中央本部でも「革マル派創始者の著書の内容を肯定し、教育に使っている」ことが明るみになったと言える。まさに日貨労内部にも革マル派が浸透し、組織を支配していることの証左ではないか。

一昨年の大会で、JR東労組一部OBの介入を組織破壊行為と規定し、「党派による介入を断固認めない」ことを機関決定した後も、日貨労本部は「革マル派創始者の著書を用いて学習会を開催している」との内情を暴露！  
～行動の矛盾を指摘され、苦し紛れの誤魔化しと正当化～

関係者によると、以前からあった「中央本部と関東地本との内部対立」について、強引に介入・収束させようとする中央本部の一連の動きに対して、関東地本が反発し、今回の暴露に至ったものと推測されるようだ。

日貨労中央本部は、革マル派との関わりを全否定して隠すべきところ、堂々と革マル派創始者の著書の使用を認め、正当化する答弁を行ったようであるが、何ともお粗末に過ぎる。真実ならば、左翼思想の一般教材として使用される「共産党宣言」どころか、もろに‘極左過激派集団「革マル派」’のイデオロギーをすり込み同盟員を育成する活動が、日貨労本部主催で行われているということ公言したに等しい。

**良識ある日貨労組合員の皆さん、  
日貨労に決別し、貨物鉄産労に結集を！**